

送配電部門の連携による一層の効率化に向けた検討

平成29年6月2日

中部電力株式会社

北陸電力株式会社

関西電力株式会社

送配電部門の連携による一層の効率化

- 各社の送配電設備が混在している地域の設備形成の最適化をはじめ、電力需給調整や電力系統の運用面などについて、相互連携により一層の効率化に向けた検討を行う。

<従前からの取組み>

○ 他社電力系統との連系強化

- ・ 隣接他社電力系統との連系による供給信頼度向上、供給予備力の節減
- ・ 系統故障時・需給ひっ迫時の電力融通による需給安定化（定期的な訓練を含む）

○ 他社電力系統との接しよう地域※¹における相互協力

- ・ 設備故障時の相互応援（資機材融通含む）
- ・ 設備の保守委託による業務効率化

<一層の効率化の取組み>

○ 設備形成の最適化

- ・ 3社の送配電設備が混在している地域において、経年取替等のタイミングで、設備のスリム化と最大限の有効活用を図る 等

○ 調整力の相互活用

- ・ 従来はエリア毎に調整力を活用して需給バランス調整を実施してきたが、広域的なインバランスネッティング※²や広域メリットオーダー※³を考慮することにより、一層効率的な調整を推進 等

※¹ 接しよう地域：ある会社の送配電設備と他社の送配電設備が近接している地域

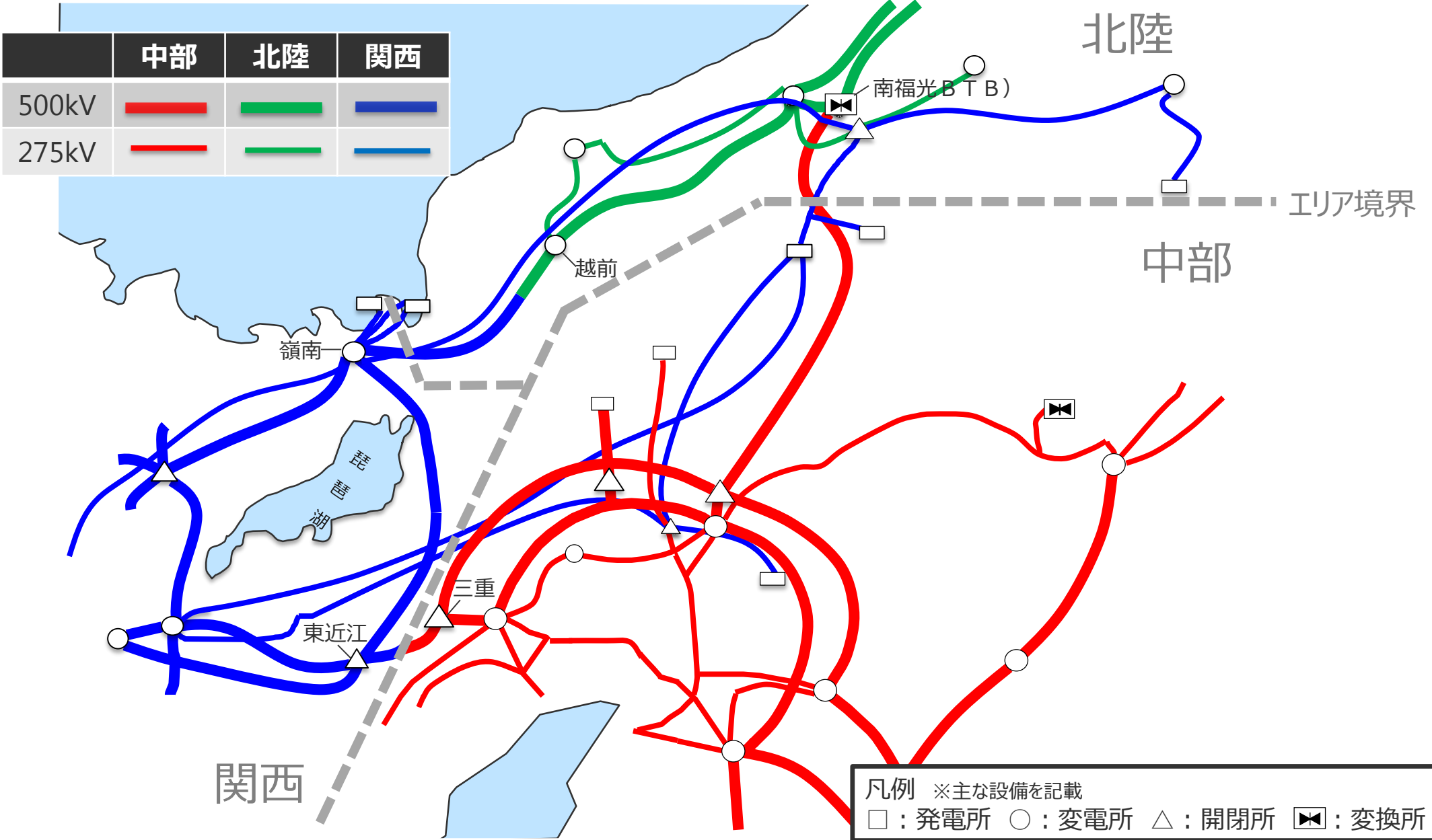
※² インバランスネッティング：エリア間で発生する余剰・不足インバランスを相殺すること

※³ 広域メリットオーダー：エリアをこえて安価な順に調整力を活用すること

具体的取組み例①（設備形成の最適化）

◆設備形成の最適化

中部電力、北陸電力、関西電力の送電線が混在しているエリアについて送電設備の最適形成を検討

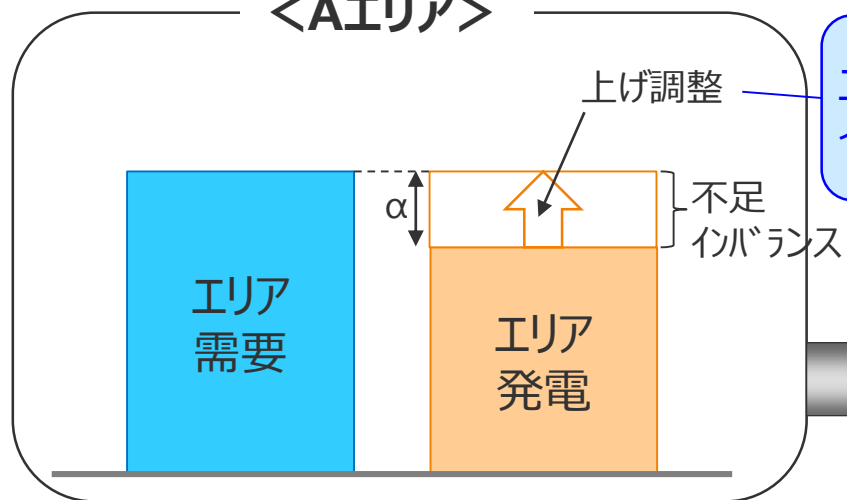


具体的取組み例②（広域的な需給調整の検討イメージ）

◆調整力の相互活用（概念図）

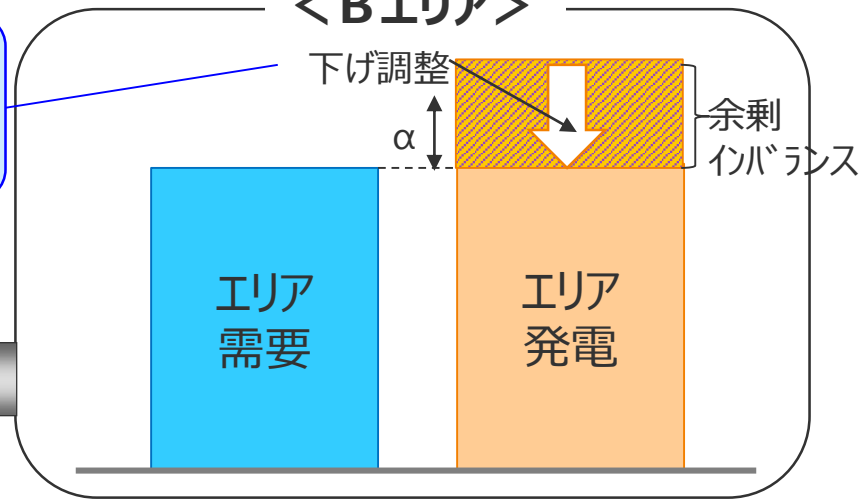
＜従来：エリア毎の需給調整＞

＜Aエリア＞



エリア毎に調整力を活用して
インバランス調整を実施

＜Bエリア＞



広域需給調整

① インバランスネットティング

エリア間でインバランス量を相殺し、
各エリアのインバランス調整量を削減
(⇒ A エリアの上げ調整は不要になり、
B エリアの下げ調整は量的に減少)

② 広域メリットオーダー

A・B 両エリアの調整電源
を対象に、発電単価の高い
電源の出力を抑制

A B エリア
の余剰
インバランス

